

腸管出血性大腸菌



オー0157による感染症を 予防しましょう!



菌をやっつけよう!



おあがりス
京都市
食の安全安心
啓発キャラクター

オー0157って何?

大腸菌の中でも**下痢**や**腹痛**など人に害をおよぼす大腸菌を病原性大腸菌と呼んでいます。

中でも、ベロ毒素という毒を作り出すものは、出血を伴う下痢の原因となり、**腸管出血性大腸菌**と呼ばれています。その代表的なものが**0157**で、そのほかにO26、O111などがあります。主な感染原因としては、患者からの感染のほかに、肉を加熱不十分な状態で食べたことによる感染であり、流行シーズンは主に7月及び8月です。

感染を防ぐには?

- 1 食品は中心部まで十分加熱(75℃・1分以上)して食べましょう。
- 2 焼肉やバーベキューをするときは、生肉を扱う箸と食べる箸を区別しましょう。
- 3 家に帰った時、食事の前、トイレの後、調理の前にはセッケンで手をよく洗いましょう。

感染予防の大原則

セッケンで手をよく洗いましょう!

手洗い方法

- 1 セッケンで汚れをよく洗い流す。
- 2 手洗い用消毒剤(アルコールなど)で消毒する。



家に帰った時

トイレの後

食事の前

調理の前

どのようにして感染するの？

O157などは菌が口から入ることで感染します(経口感染)。

- 1 菌に汚染された食べ物や水などを介して感染します。
- 2 人から人への二次感染があります。
例えば、患者や保菌者の便で汚染されたタオルやお風呂のお湯、トイレのドアノブなどを介してほかの人に感染します。

O157の特徴

強い感染力

O157はごくわずかな菌量でも感染します。特に、乳幼児や高齢者には注意が必要です。

強い毒性

O157は増えるときに、ベロ毒素を産生します。これにより合併症などを引き起こし、重症化する場合があります。

潜伏期間

O157の潜伏期間は平均3~8日と長く、原因が特定しにくいいため、感染が広まる危険があります。

O157などにもし感染したら…？

- 発熱、おう吐、出血を伴う下痢など、O157などの感染が疑われる症状が見られたら、すぐに医療機関を受診しましょう。
- この菌は感染力が強いため、二次感染に注意しましょう。排便した後は十分な手洗いや消毒を行い、また、同じお風呂のお湯を使わないようにしましょう。
- 患者の糞便などで衣服などが汚染された場合は、煮沸したり、消毒薬で消毒した後に、家族のものとは別に洗濯して、天日で十分乾かしてください。



お問合せ先

医療衛生企画課

京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65番地 京都朝日ビル2階

健康危機対策担当

TEL.075-746-7200

FAX.075-251-7233

医療衛生センター

京都市中京区御池通高倉西入高宮町200番地 千代田生命京都御池ビル2階、6階

北東部方面 (北区、上京区、左京区、東山区)

TEL.075-746-7211

中部方面 (中京区、下京区)

TEL.075-746-7212

FAX.075-251-7236

南東部方面 (山科区、南区、伏見区)

TEL.075-746-7213

西部方面 (右京区、西京区)

TEL.075-746-7214

FAX.075-251-7234



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



京都市 O157

検索

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!



発行：京都市 保健福祉局
医療衛生推進室 医療衛生企画課
京都市印刷物 第064350号
令和6年6月